

# 4月23日に「総会」

## 3月例会は「北京ヴァイオリン」

### 1 定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2004年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、できるだけご参加いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2004年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 2004年4月23日(金)午後7時から7時30分
- 3 場所 加古川総合文化センター 会議室2
- 4 内容 2003年度事業報告に関する事  
2003年度決算に関する事  
2004年度役員を選定に関する事  
2004年度事業計画に関する事  
2004年度予算に関する事
- 5 参加方法 直接会場にお集まりください。

当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

### 2 例会の報告とご案内

【前回例会報告】1月23日に総合文化センターで、第10回例会として「ぶりてい・ウーマン」の鑑賞会を行いました。延117人の会員の皆さんとともに、おばあちゃんパワー全開のコメディタッチの作品を楽しみました。作品としての完成度については、いろいろな意見があると思いますが、それを補っても余りあるシルバー世代の女優陣の存在感と明るさがありました。

【次回例会案内】次回の例会は以下のとおりです。

名称 / 第11回例会「北京ヴァイオリン」(2002年、中国、カラー、117分)

日時 / 2004年3月12日(金) PM2:00 ~ PM4:20 ~ PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR東加古川駅から北へ徒歩15分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

### 3 例会作品データ

タイトル / 北京ヴァイオリン

監督 / チェン・カイコー(陳凱歌)

主演 / タン・ユン(唐韻)、リウ・ペイチー(劉佩奇)、チェン・ホン(陳紅)、ワン・チウウェン(王志文)、チェン・カイコー(陳凱歌)、チェン・チアン(程前)、チャン・チン、キム・ヘリ(金慧莉)、リー・チュアンユン(李伝韻)

データ / 2002年、中国、カラー、1時間57分、16mm

その他 / 2002年サン・セバスチャン国際映画祭 最優秀監督賞(チェン・カイコー)、最優秀主演男優賞受賞(リウ・ペイチー)

会員の感想 / 最近の映画は、父と子を描いたものが多いように思います。イギリスの名作『リトルダンサー』がそのはじまりだったのかなあ。さて、この作品では、息子を世界的に有名なヴァイオリン弾きにさせようと、けな気に生きる父の姿、さらに、父が選んだ一人目の古風で清貧な先生と、二人目の現代風で政治力のある先生の対比が見どころなんでしょうね。ちょっと、いろいろ考えてしまいます。その中で、二人目のユイ先生は監督のチェン・カイコーが演じていることは知った上で観ましょう。

なるほど、社会や時代をテーマに織り込みながら、格調の高さ感じさせるところは、言われてみれば『さらば、わが愛

〜霸王別姫』、『黄色い大地』、『始皇帝暗殺』などのチェン・カイコー監督作品といえます。また、全篇に流れるヴァイオリンの名曲と中国の音楽が作り出す雰囲気も、この映画の見どころ(聞きどころ?)ですね。(Y.M.)

### 4 会員コラム

**映画雑感** 寡作な映像作家である小栗康平監督が新作『埋もれ木』にとりかかれるようになったとのこと。前作映画の『眠る男』以来八年ぶりの作品。国際的にも評価の高い小栗監督の作品は世界中から待ち望まれています。監督自身のオリジナル脚本で、主人公が小さな町の高校二年生というのも興味もたれます。ファンタジーと呼びたいような世界が描かれているとのこと、どのような美しい映像がスクリーンに映し出されるのか。ぼくが自主上映を軸にした映画鑑賞団体に関わる切っ掛けが、映画『眠る男』だったこともあり、これから一年間は待ちの姿勢ですが、時代の不確定な熱狂から身を離しながらも楽しみに待つことにしたいものです。小栗康平のことを考えながら、最近の鼻筋であるスペインの監督ペドロ・アルモドバルの『トーク・トゥー・ハー』や『オール・アバウト・マイ・マザー』の映像がダブってきました。当然のように浦山桐郎の気配も感じていましたよ。(大西隆志)

**電腦映画談話室** 最近インターネットの某巨大掲示板で、私の25年来のナンバー1フェイバリットムービーである『タクシードライバー』(マーティン・スコセッシ監督:1976年)のスレッド(場、テーマ)を見つけました。作品のテーマ・背景から、主人公トラビスの思いや、ちょっとした仕草、あるいは登場人物の服装や持ち物のセンスにいたるまで、この作品が大好きな、おそらくは広い年齢層の人達が、喧喧譁譁語り合っていて、嬉しくなっていました。別な作品についてのサイトも含め、いまのところROMを決め込んでいますが、電腦の世界をちょいと覗きこんで、映画を観る楽しみが、また増えたような気がします。(Y.A.)

**ラブストーリー** 話題の韓国映画『ラブストーリー』を観ました。まさに「恋愛映画の王道」で、ちょっとした衝撃を受けました。岩井俊二監督の『ラブレター』、田中麗奈主演の『はつ恋』、チャン・イーモウ監督の『初恋のきた道』、クァク・ジョエン監督前作の『猟奇的な彼女』、さらに、今までの恋愛小説の名場面が切り貼りされたような場面が次から次に繰り広げられていました。この作品を冷静に分析して、とやかく言う人もいますが、「恋愛映画はこれでいいじゃないか!」と敢えて声を大きくして言いたい。お正月にテレビでやっていた『水戸黄門スペシャル』や、こどもの頃の『ゴジラ怪獣大戦争』を見終わった後の満腹感を味わったような気が・・・(一部冗談です)。

主役のジヘとジュヒを演じたソン・イエジンも適役でしたし、美しい映像の場面も多いんですヨ。(ハインリッヒ)

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。ファックスまたはメールで投稿ください。

**加古川シネマクラブ** 〒675-0101

加古川市平岡町新在家752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL / cinemaclub@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/cinemaclub